

第1回 ぎふ女性経営者懇談会 概要

日時：平成23年4月21日（木）14：00～16：00

場所：ふれあい福寿会館 展望レセプションルーム

<登壇者>

・モデレーター

岐阜大学 副学長 林 正子 氏

・パネリスト 五十音順

アピ株式会社 長良川リサーチセンター 商品開発部 部長 荒木 陽子 氏

ヤマカ陶料株式会社 代表取締役社長 加藤 智子 氏

森松工業株式会社 取締役 海外事業部 部長 西村 今日子 氏

・ゲストパネリスト

東京海上日動火災保険株式会社 理事 岐阜支店長 財部 剛 氏

<テーマ>

企業におけるキャリア教育と女性登用

<主な発言>

御社における女性の登用状況、活躍状況は？

- ・荒木氏：同産業、同規模の会社と比して、女性を登用している割合は高いと思う。「出る釘は打たれる」というが、女性社員には、届かないくらい出過ぎて、強く主張しなさいといっている。
- ・加藤氏：当社では女性社員は1割程度で、管理職はゼロ。中小・零細企業では女性登用は難しい。一方、零細企業の中には、ご主人が社長で、それをサポートして、繊細で細やかな対応をされている奥様方が多くいる。
- ・西村氏：上海の子会社では、トップマネージャーの30%、営業・設計・資材の40%、財務の88%が女性だが、日本では進んでおらず、女性管理職の比率は恥ずかしながら一ケタである。
- ・財部氏：総合職と一般職という体のいい男女区分をなくし、女性登用を進めてきた。安心して結婚できる、子育てができる制度もつくったが、体調や環境が整っている人に対しては、すぐに戻ってこい、というメッセージも必要だと感じている。

企業が求める女性リーダー像とは？ また、どのように育成しているか？

- ・荒木氏：女性は生理学的にも「平和主義者」。それを持続させながら、一方で、主体性を持ってもらいたい。リーダーとしては、客観的に物事をみて判断をしてほしい。
- ・加藤氏：若い女性も少ないので特に何もしていないが、私自身がリーダーシップを発揮することで見本を見せて、学べる場所があったら学んで頂戴、という思いで行動している。
- ・西村氏：中国の子会社へ派遣し、現地研修させている。中国の競争の中で男女は関係ないということを実体験で学ばせると、男女共に日本に帰ってから変わってくる。

- ・財部氏：リーダー像に男も女もない。明確なビジョンや方針を示して、部下に納得させ、励ましながら取り組んでいくこと。ただし、男女の違いをふまえ、ゴールまでのアプローチに違いがあるならば、是正は必要。

女性自身が持つべき意識、目指すべき姿とは？

- ・荒木氏：傍観者にはなるなということ。上に立つ者としては、物事をしっかり見て「正しい」「間違っている」という意見を、勇気を持って主張すること。
- ・加藤氏：女だからという甘えは許されない。傲りを捨てて、謙虚さを持ち、誠意を尽くせば必ず通ずるものがあると思う。
- ・西村氏：自分で壁をつくらないということ。男女の違いを認識したうえで、その違いをうまく使うこと。恐怖心を持たずに、壁を取っ払う勢いで。
- ・財部氏：(部下からのメールを紹介)「自分をよく知ること 自分が何をやりたいのかビジョンをもつこと 専門性を磨くこと 組織の中で多くのことを学び目標を実現させること」が重要。

岐阜県経済を元気にするような提言を

- ・荒木氏：「女性なのに…」という意見が未だにある中で、女性の活躍について、男女ともに、教育する場があるとよい。現在も取り組まれてはいると思うが、小さい頃から育つ過程において、家事・育児は一緒にやるものだということを教えていくこと。女性を強くするには、ともに生きる男性も強くなるといけないと思う。
- ・加藤氏：女性の立場で大変な危機感を感じているが、何が起こるかかわからないということを常日頃、予期しなければいけない。「想定外」はありえない。また、これだけ男女平等といわれて久しい中で、相変わらず「女性としては初」といわれることがある。いい加減、「女性だから」という見方をしていただきたくないのが本音。
- ・西村氏：県立岐阜商高の応援団員が全員女性に代わり、応援される野球部員も感謝しているという報道をみて、とても面白いと思った。まさに時代が変わろうとしているのかもしれない。日本の女性の地位は、139カ国中134番という事実を認識し、その原因、妨げている要因をつきつめ、克服していこう。岐阜県庁の支持、岐阜の女性経営者、リーダーのネットワークで可能なのではないかな。
具体的提案については、配布資料をご参照していただきたい。
- ・財部氏：経済を元気にということでは、岐阜は名古屋の立派なベッドタウン、東京でいえば横浜、鎌倉を目指してはどうか。岐阜は女性が活躍して、女性が住みやすい、子育てがしやすい、となるように、民度を高めること。また、リスクマネジメントがしっかりしたまちづくりをすること。
岐阜のPR施策としては、我々のような、全国規模の会社の岐阜支店長の集まる会を立ち上げていただき、転任後も含め、岐阜の広報マンとして活用いただいてはどうかと思う。

まとめ(林 氏)

- ・過去に、多くの先輩方が女性の社会進出に尽力してこられたわけであるが、まだ十分とはいえない状況。

- ・女性の活力を活用しないで今後の日本経済はありえない。女性への支援といっても、例えば出産となれば「休みをとりなさい」というだけではなく、必要なのは、しっかり復帰できる制度をつくること。結婚したいとき、出産したいとき、復帰したいとき、のあるべき制度をこの懇談会で共有していきたい。
- ・また、こういう機会を通じて、県民一人一人が、課題を共有・認識することも、重要なのだと思う。異業種、異分野の方々がこうして集い、ネットワークをつくるのが大事。もちろん、職場や産業形態で、課題や意見の相違はあると思うが、共有できるものとして、本日お集まりの皆さまなどは、自らロールモデル（お手本）になっていくのだという意識が非常に高い方々であるということ。
- ・これから、日本全体、国際的にも貢献できる岐阜人を育てていくためには、男女問わないが、一人一人がロールモデルになる意識が必要なのではないか。
- ・本日のテーマ「キャリア教育と女性登用」については、例えば大学においては、大学院生が小中高校生に出前授業を行っているが、研究者・教員が身近なロールモデルとなり、課題を認識させ、乗り越えさせることとしている。こういうロールモデルの存在が、キャリア形成、ひいてはその後の登用にも有意義なのではないか。

<女性起業家サミット基調報告> （西村氏）

登壇して主張したのは以下の3点。

- ・「女性に機会を」「働く女性への支援」「偏見の克服」

サミットの成果として、以下のメッセージがAPEC中小企業大臣会合で政策提言として報告され、共同閣僚声明としても反映された。

- ・女性起業家への資金調達支援と企業に関する指導(官民連携して)
- ・女性起業家同士のネットワークづくり、情報交換
- ・成功例の公表、発表、メンターの設定
- ・女性起業家に対する政治的イニシアティブの拡大

<会場風景>

